



新年 謹賀

昭和58年元旦

洛友会会報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会



洛友会役員

副会長
會長

- 東京支部長 山近吉河山徳池西佐古池大金真本巽芦松
- 関西支部長 口藤田本下岡内岡木川上谷井田安夫
- 北陸支部長 春文洪勝 義敬二正
- 北海道支部長 男治二寿実毅
- 四国支部長
- 東北副支部長
- 九州支部長
- 常任幹事

京都大学
電気関係教室
教官一同

財団法人

関西電気保安協会

三洋電機株式会社

栗原産業株式会社
代表取締役 栗原 英三

株式 島津製作所
取締役会長 上西 亮二

シャープ株式会社

フジテック株式会社
取締役社長 内山正太郎

松下電器産業株式会社
中央研究所 片鎌 秀雄

株式 日立製作所
関西支店

トクデン株式会社
代表取締役 北野 山人

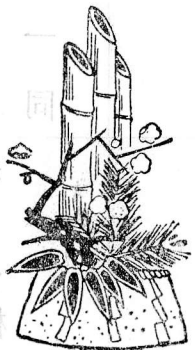
謹賀新年

昭和58年元旦

洛友会



| | | | | |
|-----------------|------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| <p>高周波熱錬(株)</p> | <p>株式会社 つゆき</p> | <p>(株) 四電技術 社長 徳岡 毅</p> | <p>(株) 電力効率化 東京支店員</p> | <p>株式会社 電気評論社 東北區支店員</p> |
| <p>鳥</p> | <p>株式会社 電子開発学園 取締役社長 松尾 三郎</p> | <p>日比谷総合設備株式会社</p> | <p>日立化成工業株式会社 取締役社長 高木 正</p> | <p>日本電子開発株式会社 取締役社長 松尾 三郎</p> |
| <p>雪</p> | <p>日新電機株式会社</p> | <p>関西電力株式会社</p> | <p>財団法人 応用科学研究所</p> | <p>株式会社 シンコーメタリコン 取締役会長 立石 亨三</p> |
| <p>花</p> | <p>山田五太郎</p> | <p>山田五太郎</p> | <p>山田五太郎</p> | <p>山田五太郎</p> |



新年お目出とう御座います

会員各位の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

洛友会会長 松田長三郎

① 会員名簿 既に予告して御了承を得ておりましたように、毎年十二月に発行しておりました会員名簿は、今年から、隔年発行になりましたので、今年、旧名簿をご利用願うことになっておりますので、不悪、御諒承をお願い申し上げます。本年度の洛友会事業及び予算は、例年の通り、本年も、2月初旬に開催の予定の役員会で決定の筈であります。

現在、会員数は学部卒業生五、三一五名、講習所卒業生一、二七八名、合計六、五九三名の多数の方々が、全国各地及び海外で、活躍しておられますことは、心強い限りであります。活動には、何と云っても健康第一でありますから、十分御自愛專一に祈り上げます。

② 緊縮のこと 本年度の国家予算は、50兆の上台を越したが、この範囲内で、政府の行政が行われるが、この歳入のうち、約半は借金で賄われることになっていますが、一家の場合であったら、当然破たんする。引き締めなければ

ならぬが、臨時行財政調査会答申の実績を、国民は一樣に見守っている。国家財政のみならず、会社でも、家庭でも、この精神で進めて行かねばなるまい。

③ 教育のこと 交通や通信機関の発達によって、世界は益々狭くなって来た。世界の隅々の動きも、即刻に報道されているし、宇宙開達の進展・精巧化によって、地上の動態・静態も、手に取るように探知せられるようになって来ていることは、驚嘆の外は無いし、油断もすきも無いとも云えよう。昨年成功したスペースシャトルの発達も、種々の科学技術の進歩に貢献すること大なるは勿論であるが、主眼は軍事目的利用にあることは確かである。今や我々は、押しも押されぬ経済大国になって来たが、米国は勿論、欧州諸国(E.C.)との経済摩擦が、日を迫うて大となりつつあることは、大いに留意警戒しなければならぬことであって、自重自戒、謙虚に対処しなければならぬが、一部においては、日本人の不遜をな

④ 遊び盛りの子供 拙宅の近くに小学校や児童公園があり、幼少の者から、相当の児童生徒達が、無邪気に、嬉々として飛んだり跳ねたり遊び廻っている有様を見るのは、大変楽しいことであるが、私の知人は、東京で、秀才教育の有名な塾を経営しているが、旧臘、NHKで、その実態が放映されたが、既に一才位から教育されていて、余り遊ぶ時間も無いような有様を見て、驚いたことであつた。子供は遊んで大きくなつた、私共の時代から戦前位までの、のん気な楽しい時代が懐かしい。これは東京の一部の社会だけではあるが、これ程までにしなければならぬのかと、子供が可愛相と思つた。近頃バスに乗っているも、おさん達の談話が「...大

⑤ 健康のこと 固くるしい話

じる向きもあることは留意しなければならぬ。我国一般の教育程度の高いことは、大変結構なことであるが、これからは、更に高度の文化国家として、世界から尊敬せられるような国家でありたいものである。その源泉は教育にある。

になったので、少し健康のことに就て記します。私は、昭和41年に、書画を楽しむ同好の士を語らつて、又楽会なる会を創めた。会員は、京大名誉教授、裁判所長、商工会議所会頭や会社々長、医師弁護士など約20人で、月2回、70の手習いを始め、現在まで飽きもせず17年も続いているが、旧臘、忘年会をやつたが、談、偶々、年令のことになつたが、平均年令は、丁度80才、最年少は78才の奥田東・元京大総長で、最年長は90才の私であつた(何れも数え年)。

今、京都大学には約30名の名誉教授があり、私は、上から8番目であるが、元氣良く飛び廻っているのは、私位であるから、大学の行事で、万歳三唱の音頭をとる光栄を荷うことも多い。おかげで、耳も目も丈夫で、よくもここまで来られたものと、健康の有り難さを、泌みじみと思うのである。心身とも健康であるのは、幸福の第一歩、自らも快適であるし、家族や周囲に迷惑をかけぬことにもなる。

よく、健康法に就て聞かれることがあるが、別に取立てて申し上げることは無く、全く、平々凡々の日常生活である。如いて申せば、心の平静は勿論、ラジオ体操と、ブラサガリ機に約10秒間ぐら

い懸垂し、附属のボート漕ぎを30

回位いやると、一日、八千歩から一万歩ぐらい歩くこと、含漱を励行すること、腹八分目で、よく咀嚼することぐらいいである。

⑥ 鴨川のほとり この散歩は、私が理事長を勤めている財団法人近畿地方発明センターが鴨川の川端・東一条にあるので、この鴨川べりを漫歩するのであるが、今はユリカモメ(都鳥)が、数百羽も屯ろしたり、游泳したり、ダイビングをやつたり、空高く乱舞したりして飽かず眺めているし、又野鳩が数十羽、雀が数十〜百羽も、仲良く遊んでいる。時々、サンドイッチのパンの切り端を持って行つて投げつくと、恐れを知らぬ彼等は、人なつかしく飛んで来て、カモメ・鳩、共に仲良くつついている、実に壯観である。只、雀だけは、頗る用心深くて、なかなか近寄つて来ない。人間に最も近かしの小鳥ではあるが、容易には人間に近づこうとせず、甚だ警戒的である。しかし随分以前、伏見に、所謂、「雀のお宿」と云うのがあつて、民家の台所に、多数の雀が集まつて来ているのを見たことがあるし、又ハワイで見た雀は、よく馴れていて、

テンプルのパン屑などを喰べに来たことを思い出す。このワイキキの浜で、お茶を飲んでいと、中

曾根さんが長谷川峻さん(今度

中

中

働大臣になった」と、米国政府の招待で、南極視察の帰りとのこと、日系人で、初めての米国上院議員さんと共に、「お目にかかった。それは兎に角、鴨川には、白鷺も、時には数十羽も、川中に佇っていることがあり、鳥も二、三羽、これに交っているし、空には高く教羽の鷺が、悠々と輪を描いている。こういう絶好の景観であるに拘わらず、ここを通る人は稀で、私が独占していることが多く、誰れ憚らず、自由に放歌高吟することも多い。この辺から、北に目をやると、近くは、下鴨神社の森から、遠く鞍馬や北山の連山が望まれ、又比叡山にかけて、虹が懸ることもあって、その美観は言語に絶する。川を隔てて対岸には、府立医大の附属病院があり、又南に隣接しては、関西電力の広地の一割に、同社の厚意で割愛された土地に、西独大統領や首相が熱望されていたドイツ文化センターの新館が、今秋の落成を目指して、今、工事が盛んに進行中であり、又その東には、京大倉庫があり、ここには、落ちついた宿泊施設もあるから、旧来の楽友会館と共に利用されている。

⑦ 近畿地方発明センター 前記した財団法人近畿地方発明センターは、昭和17年、石川芳次郎さん(明治43年、電気教室卒業、京

都市名誉市民)の提唱創設せられた財団法人京都技術科学館が前身であり、理事長は、歴代の京都府知事、石川さんは副理事長、鳥養先生は館長、事務局長は斎藤清氏(講習所、昭和12年卒業)、私も何かをやっていたが鳥養先生が京大総長になられたので、その後、私が館長となり、市内の各中等学校の生徒など、青少年の科学技術錬成の場として、国費年額二十万円を支給せられ、職員70人を擁して活発な活動を続けていたが、終戦後、進駐軍から、「知事の理事長はいかぬ」とのこと、石川さんが理事長となられ、更に中曽根さんが科学技術庁長官になられた時、各地方に、地方発明センター創設の構想を出された際、京都には、幸い京都技術科学館があるから、これを横すべりして貰えないかとの懇請で、近畿地方発明センターとなり、現在に及んでいる次第。石川さん逝去後は、私が理事長に推されて。そんな訳で、中曽根さんには、京都市民及び京大工学部で講演してもらったことがある。地方発明センターは、何ヶ所か創設せられたが、今残っているのは、京都だけである。

⑧ 思い出の人 長い過去を振り返ってみると、心に残る思い出の人々も多い。で、多くつきあうのは、ドイツ人であり、アテ

ナウア(首相や三人程の大統領にもお目にかかり、銀メダルを頂いたこともあるが、外人で最も親しみを抱き、尊敬している一人の貴婦人がある。この婦人には、昭和6年、渡欧の際、欧州航路の郵船靖国丸で同船し、34日間のマルセイユまでの航海中、よく英会話を教えてもらった。ロンドンへ来た

ら、来て下さいとのことであつたので、ドイツでの在外研究を終え、ロンドンのホテルに着いて、電話したところ、ホテルに泊ることは無いと云うて、迎える車を寄こさせた。クイーン・メアリーも来られたり、日本の皇太子様にも歓迎のパーティーを開かれたりする名門であり、何でも日露戦争当時、金融について我国へ、大変功績のあつた家柄とも聞いた。流石、貴族だけあって、晩餐には、

タキシードで食堂へ、燕尾服を着た食堂係の人がお給仕してくれる。その婦人と二人きりの差し向いであるから、気の張ることおびただしい。私が、訪問し度い大学や研究所などには、電話で連絡をとって下さったが、英国婦人の、社交界の交遊の広さには驚嘆した

ことであつた。OBE (Order of British Empire) の勳章をもらわれていた。夜はトランプや音楽会などに招待されたりして、大変厚遇を受けたが、日本人では、尾崎

行雄氏、鶴見祐輔氏に次いで、私

が三人目。私の後、徳川頼貞侯爵が泊られたとのことであつた。この当時は、英国の盛んな時であり、松平駐英大使の令嬢・勢津子姫も、セツコ・セツコと云つて、可愛がられたが、秩父宮妃となられた。

その御礼のしるしに、伝来の「日本古燈器大観」を寄贈したら、私蔵するのは惜しいとて、科学博物館に寄贈せられ、これが一般に展覧せられて、新聞にも大きく報道されたことがあつた。

超えて昭和37年(20年前)、再遊して、やはりここに泊めて貰つたが、以前とは大分様子が変わっていたが、それでも、寡婦のお独り

LSI時代への対応

電子工学科教授 田丸 啓 吉

住居ではあるが、尚七、八人の召し使いを使っておられた。その後数年で亡くなられたが、今も御遺族とは文通している次第です。

⑨ 取り留めもないことを、長々と記したが、最後に、重ねて会員各位の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。(終)

二村忠元 東北大学名誉教授の訃
洛友会東北支部長二村忠元博士は去る十二月十八日、東京から仙台への帰途、大宮駅で、心不全のため急逝されました。茲に謹んで深厚なる哀悼の意を捧げます。

松田会長

大規模集積回路(LSI)、一九八〇年代の超LSIと進歩を遂げてきた。集積回路産業は、急速な技術進歩、高い成長性、応用分野の拡大、急激な価格低下などを特徴として発展し、今や一国の経済の動向を左右する基幹産業になってきた。

技術進歩について見ると、性能、集積度の進歩は目ざましく、集積度は一九七〇年代中頃までは

年率二倍、それ以後は二年で二倍の割合で増大したと言われている。これは二〇数年にして百万倍の増加を達成したことになり、その急激さの程が解かる。このような技術進歩は、まだ当分継続すると予想されている。

一方産業としての成長性も抜群であり、一九八一年の集積回路（半導体および混成集積回路）の生産額六、八九〇億円で、前年比二〇・八%増であった。これは不況のため低い値になっており、一九七八年から一九八一年までの平均前年比は三五%増である。不況でややペースが鈍っているが、一兆円産業に達するのも目前である。

このような高成長は、集積回路が基礎素材として、従来の電子機器分野は勿論、他の産業分野まで用途を拡大したことによっている。集積回路によって新しく出現した電子機器は数多くあるし、またマイクロコンピュータの応用に典型的に見られるように、電子化あるいは知能化という傾向が機械産業をはじめとして、あらゆる産業に広がってきている。集積回路を含む半導体産業が、産業の米と言われるようになったのもこのためである。このような利用分野の拡大の要因の一端は低価格化にある。集積回路の価格は技術革新、

習熟曲線効果、製品競走などにより、年とともに下りてきた。このような低価格化が続く限り、集積回路の需要はますます増えてゆくであろう。

一口に集積回路と言っても小規模集積回路と大規模集積回路（LSI）では性格が異なっている。前者は従来からの部品の性格が強いのに対して、後者はシステムの色彩をもつ部品という新しい性格を持っている。現在大きなインパクトを与えているのはこのLSIの性格によるものである。

LSIの性格の代表的なものを挙げると、第一にシステムと素子の製造が一体になっていることである。これはLSI設計技術者が単に半導体の知識だけでなく、その上に実現するシステムの知識を必要とすることを意味し、設計技術者には複數分野の専門知識が要求されるようになる。第二に標準品化されていることである。標準品化されたことにより、量産化、低価格化をもたらしたが、一方では誰がつくった装置でも、同じLSIを使用する限り類似の製品ができるという画一化現象がおこり、独自仕様のカスタムLSIに対する要求も増加してきている。ところが非標準品は入手が困難であり、入手できたとしても非常に高価になる。この問題を解決するた

めに、量産半製品を使用し、配線のみをユーザーの仕様に合わせたセミカスタムLSIと呼ばれるものが供給されているが、全ての要求を満たすには十分でない。カスタムLSIが困難で高価になるのは、設計が複雑で多大の労力を必要とするからである。このため計算機を使用した設計法（CADシステム）が使用されて効果を上げてきている。しかし設計の中心となる技術者の頭脳は計算機で代用するわけにはゆかないので、最終的にはメーカーの技術者不足が問題になる。このためカスタムLSIやセミカスタムLSIの設計はユーザー側が担当するようになる傾向が出てきており、ユーザー側の技術者がLSIの設計をするための知識を持つことが必要になってきている。第三に基盤技術として広範囲に影響を及ぼすことである。LSIと関係のない電子機器は考えられない。自分では直接LSIの設計、製造にたずさわらない技術者でも、今後はLSIの知識なしには仕事ができなくなるのは明らかで、LSI技術は電子技術者全般の共通技術になっていく。さらに電子機器の応用分野が急激に拡大しているから、他産業の技術者にも必要な技術になりつつある。第四に急速な技術革新が進んでいることである。LSIの

性能は新しい技術の使用によって格段に上る性質がある。新しい技術の開発、習得に不断の努力が必要である。またLSIの使用にとっても新しい技術に関する知識の吸収は欠かせないことである。

このような性質をもつLSIを使いこなすために、将来の技術者はLSIの基礎理論は勿論、実際に設計した経験をもつことが望ましい。しかしこれまでのわが国の大学の半導体教育は、半導体物性からせいぜい小規模集積回路までの範囲が一般的である。LSIの教育は主として企業内教育にまかされ、大学の教科には取り入れられていなかった。一方技術者教育に占める大学（大学院を含む）の役割の大きな米国では、一九七〇年代中頃よりLSI教育が開始されてきた。産業界の現状を見る限り、わが国においても本格的なLSI教育の必要性は明らかであり、むしろ現状の立遅れは重要な問題と言わざるをえない。

このように立遅れた原因は、一つには大学が基礎を教育すればよく、その先の実用的教育までは不要であるし、科目数が増加して学生の負担が大変であるという考えにあった。しかしこの考え方は、LSIが基盤技術化して、もはや特定の専門技術者だけの分野でな

く電子技術の共通の基礎技術となつたことにより、LSI教育を行わない根拠にはならなくなった。むしろ産業の実状はLSI技術を基礎教育として要求していると言つてよい。電気系教室では、大学院を中心にLSI関係の教育を整備充実するべく検討をしている。

他の重要な原因は、LSIの研究教育設備が大規模で高価であるため、大学で保持、運転でき難いという問題である。LSIは全工程が同じレベルで揃っていないと良品ができないこと、レベルは少なくとも標準的なレベルを保持する必要があることなどの条件を考えると、どのような設備を持つかということは非常にむずかしい問題である。現在国内の他大学を含めて考えられている方法には、性能レベルは低いのが保持可能な小規模設備をもつ、標準レベルの設備をもつ共同利用施設を新しくつくる、企業に製造を委託する産学協同方式などがあるが、いずれも一長一短があり、問題が残っている。

米国では主要な大学が国防省をはじめとする政府機関や企業からの資金により、大学独自の製造設備を持つ方向に進んでいる。また多数の大学の設計を集めて、企業が製造を受け持つマルチプロジェクト方式の試行も行われて

いる。本教室としてもどのような方策をとるのがよいか検討を始めたところであり、ぜひ効果の上る方法を考えたいと思っている。いずれにしても優秀な研究者、技術者を育成するために、電気系のみならず関連分野を含めた学生に十分なLSI教育ができる体制をつ

虎溪山と観楓

このたび後輩の大須賀真一君(昭和21)のご厚意で虎溪山永保寺を案内してもらったところ、大変感銘深いものがありましたのでこれをご報告することにします。

大須賀君は卒業後郷里の多治見工業高校の電気科長を勤める傍ら漢詩の研究にかなりの精力を注いだらしく、いつの間にか詩人雲庵として名を成すに至った異才であります。彼が詠じた虎溪山の漢詩を紹介する前に、まず小生の近況についても報告することにします。小生は作詩でなく専ら詩吟です。古稀を迎えたとき友人から老化防止によいといつて奨められたのが入門のきっかけで、もう六年間続いています。詩吟も最初は男性的なリズムと健康的な発声だけで楽しいのですが、永く続けていると詩中に込められた作者の心を

くりたいと念願している。諸先輩および卒業生各位のご助言、ご協力をお願いする次第である。

(本文執筆のため昭和五十七年文部省電気工学教育研究会分科会予稿集、ゼロック社資料、日経エレクトロニクスを参考にした。)

昭6 古田 久一

表現するための発声を心掛けるようになります。このことから自づと漢詩を文学的に鑑賞する潤いも加って詩吟の楽しみは一入深まってきました。

こうした小生の近況を知ってかどうかは存じませんが、大須賀君からの書面の中に虎溪山を詠んだ次の漢詩が添記してありました。

虎溪山永保寺

遠離塵巷虎溪嶺
近对飛泉方丈前
老樹語何池映奈
直心伝護夢窓禪

雲庵

多治見に虎溪山永保寺という名刹のあることは聞いていたが訪れるチャンスに恵まれずいたし、この詩からすばらしい幽境が連想されたので是非訪れたい気持ちに駆られたのです。

幸なことに十月二日には洛友会中部支部の恒例の行事として伊勢志摩五ヶ所湾内の七日島で観月の会があり、大須賀君も参加すると聞いていたので、この機会を捉えて都合を聞くことにしたのです。ついでに今年の観月会の模様を一筆加えることにすると、当日は生憎朝から雨でした。夕方にやっと雨は止みましたが空一面の濃い雲はそのままでした。洛友会のグループはすばらしい展望のきく山の家に陣取らせてもらったのですが、残念ながら名月抜きのお席で親交を楽しむことになりました。

さて、宴酣を過ぎた頃になって大須賀君の方から虎溪山を案内するから家内同伴で来るようにと奨められたので恐縮しました。そして十一月十日頃が紅葉も見頃で最高だとつけ加えてくれました。ちと厚顔しいとは思いましたがこのご厚意を素直に受け入れることにして、結局十一月九日のお昼前に家内同伴で多治見の大須賀邸に参上した次第でした。

まず、庭園を奥深く探勝したあと、さきに急坂を降りてきた位置から反対方向に百米ほど行くと土岐川の岸に出ました。そこから眺めた景観は洛西の清滝川溪谷を数倍に拡大したのに似たものですが「このは中国魯山の虎溪の風光そのものだ」と大須賀君が云

ました。そして石畳の急坂を下ってゆきました。急坂を降りきるとそこは雄大な永保寺本堂の前でした。まず、夢窓国師造庭の名園を案内しようということで右手へ回りました。すると心の字を象った心字池があります。池の細くなった中央部に彼岸(来世)と此岸(現世)を結ぶという無際橋が架けられています。向側の彼岸を見ると右に観音堂、左に高さ二〇米余の岩の絶壁があります。その絶壁の上から清らかな飛泉が実に美しく流れ落ちていました。またその飛泉の源泉に当るらしい遙かなる高所に小さなお堂があって幽玄そのものです。そして心字池のまわりには老松や紅葉が綺麗な影を落とすしており、池中には鶴と亀を象った二つの奇石が配されていて、恰も水墨画をみるような雄大な名園です。私共は大きく反った無際橋の上の亭屋に坐して全景に見とれていたが、しばらくすると夢窓の禪に心ひかれる思いがしました。

うのです。聞けば彼は昨年この老師と共に虎溪山のルーツを探るため態々中国に渡り魯山を訪れたと云うのです。これで夢窓国師がこの地を虎溪山と命名された由緒を知ることができました。

最後に方丈に上って香南軒老師にお目にかかったのですが、老師は開祖夢窓国師の禪について詳しく説いて下さいました。その法話を一口に纏めると、夢窓の禪の特色は荒業によって禪の悟りを聞くのではなく、景勝の自然に向って坐禅をくみ、自然と人間の関連を究める中から禅を会得するということでした。したがって禪のよすがとするためにすばらしい庭造りを究められ、その結果として数多くの名園を残すことになったのだと思います。この法話を聞いた上でもう一度前掲の雲庵作の漢詩を読むと「老樹何を語り池なにか映さん、直心夢窓の禪を伝え護る」の詩意をよく理解することができそうです。宗教文学に弱い小生も大須賀君の丁寧な案内と老師の法話で夢窓の禪に関するかぎりどっさり智識を詰め込んで虎溪山を出ました。このあと更に美濃焼の窯元二ヶ所を案内してもらって午後四時半頃多治見駅で大須賀君と別れて帰途につきました。

さて、ここでもう一つ追記したいことがあります。それは宗教及

が陶芸智識のお土産をどつきり戴いた上に思いがけない拾い物をしたことです。思うに現今は正に觀光ブームであつて景勝地は云うに及ばず名利までが観光客の洪水です。特に觀楓となると山径が多いので立ち止つて楓林に見とれていようものなら人波で転がり落ちてしまひます。この人混に加えて飲食店や売店が立ち並んでいます。年老いたためか、こういう觀光地がひどく嫌になつてきました。一度幽境でのゆったりとした觀楓を楽しんでみたいと念じていたところ偶然にもこのわが儘な願いを虎溪山が充たしてくれたのです。庭園の奥に国宝開山堂が建つていますが、その左手の急峻な石径を登つてゆき幽境の中の岩壁に見事に彫られたあらたかな石仏を案内してもらつた時のことです。

もう少し登つて俯瞰すると木立越しですが、左手の彼方には土岐川の清流がかすみ、足下は境内の紅葉が燃えています。その向うに開祖のお手植と伝えられる大銀杏が黄葉を掲げて本堂の屋根を殆んどかくしています。そして黄葉の上は薄暗いほどの雲空でした。人影も少ないこの風景を眺めたときの私の実感は愛吟する杜牧の詩そのものでした。

遠上寒山石径斜
白雲生処有人家

停車坐愛楓林晚
霜葉紅於二月花

当日は平日でしかもぐづついたお天気であつたことが実感を一入この詩意に近づけてくれたのだと思ひますが、お蔭で今後はこの虎溪山の実景を脳裡に浮べつつ、恰も詩中の人となつてこの詩の吟を樂しめることは私にとって思ひがけない拾い物でした。聞けばこの

桂 林 紀 行 ②

昭和七年卒 鈴木 茂

九月一三日 全日電車

早朝六時三〇分に起床し朝食もとらずに九竜駅に向つた。昨一二日が仲秋の名月であつた。中国人は仲秋節を盛大に祝い、他郷へ出た人々は、この時期は故郷を訪れた人々の霊を祀ると云う風習がある。香港の住民も多数が故郷に向うので、特急車の指定席券が入手出来ず、八時出発の普通列車で中国入りをする余儀なきに至つた次第である。

駅には列車に乗組む多数の群衆が既に延々と長蛇の列を作つた駅舎を取囲む。群衆は恐らく前夜からの徹夜組であろう。殆んど全部が夥しい荷物を携へる。テレビ・ラジオ等の電機成品を中国に持込めば何よりの土産物になり、帰り

境内を中心として随分遠い区域まで寺領になつてゐるとのことです。から売店の建つ心配もなく、ここ虎溪山の景勝は現在の幽境のままいつまでも保存されることでしょう。

大須賀真一学兄よ。ご親切なご案内ほんとうに有り難うございました。

(以上)

は菓草、漢方薬等を持帰れば何層倍にもなると云うので人々の熱も上ろう。丁度我國の益や正月の帰郷風景を増幅したような形である。

列車は直轄植民地、新界を経て国境へ向い、線路の片側には国境から延びた太い送水鉄管路が敷設される。沿線には大都市が新設され、旧式の市街や中国式家屋は取払われ、高層マンションと舗装道路の新市街の建設が進められ、一五年後の租借地返還は何処吹く風と云う光景である。

広九鉄道の英領側終点の羅湖で列車を降り、税関検査を受け、中国側の起点深剣から別仕立の列車に乗ると云う仕組になつていた。国境は高さ三米位のフェンスが

延々目の届く限り続く。立木を切払つたの頂上には監視所らしい建物を見た。明かに中国側から逃亡者防止、施設である。人民政府が人民の逃亡防止に、こんな嚴重な施設をしなくてはならぬとは、全く皮肉と云わざるをえない。

両駅間に一ヶ所だけ、巾二米位の出入口がある。これが唯一の通路で両側に金網を張つた廊下が税関まで続く。この出入口に全乗客が殺到するので大変な混雑となる。一行も否応なく混雑に巻かれてしまった。それでも行列は序々に進み、やがてバスポートチェックも済んだ。この間約一時間は要したのである。

以後は觀光客は別扱いになり、手荷物検査、通貨交換も簡単に済み、広い待合室で休憩出来た。机とソファアが並び天井には扇風機が廻り壁には毛沢東の書が掲げられ湯茶の接待もあつた。

やがて広州行の列車は出発したが、これ位の時間で全乗客の税関検査が済むものではなく、大部分は積残され次の便を待つことにならうらしい。列車に食堂車はないので仕出し弁当が届けられた。開放的なアルミ弁当箱に米飯と肉と野菜の煮込みが盛りられ、コカコーラが一併つくると云う粗末なものであつたが結構食欲を充たしてくれ

た。空腹は最上の料理人である。中国内の風景は、田には稲が延び、水辺には水牛が草を喰むと云うのどかな田園風景が続く。一四時三〇分列車は広州に着いた。

広いプラットフォームも安壮な駅舎も新築で如何にも大陸的感じのする広州駅であつた。駅前廣場は中層ビルが取囲む。三洋電機・精工舎と云う進出企業の広告が目につく。気温の三十一℃で湿度が高く内地の梅雨時を思わせる氣象であつた。楊君と云う若いガイドが迎へてくれる、中国風に云へば通訳である。上海製のネームプレートをついた小型バス二台に分乗して仏山觀光に向う。冷房も利き座席も軟かで乗心地は悪くない。

市内を抜けると水田地帯に入る。その中を舗装道路が一直線に西南方へ延び、両側には美事に育つた数列のユーカリの並木が続く。葉は製油所へ送り油を採ると云う。この珠江デルタは見渡す限り広く山影は全然目に映らない。水田が拓かれクリークが縦横に流れる。年間に米が二作、麦が一作とれると云う。

仏山は広州の西南約三〇kmであり、人口約二〇万人の工業都市であり、特に陶器は安朝以後七〇〇年の歴史を誇る。国営の陶器工場に案内された。鉄筋三階建の中規

模工場であった。女性幹部が出て一行を歓迎し、工場概況について説明を加へる。製品は美術陶器で女工さんが多い。工場を案内して貰ったが、母親が陶土をねり造型する傍で五、六才の男の子がすやすやと昼寝すると云う微笑しい風景もあつた。焼成はトンネル窯でやっていた。数年前台北で同業の工場を見る機会があつたが、設備の近代化は台北の方が数段優る。

次いで仏山寺を訪れた。中国風の立派な仏閣で宋代の創建である。所が本堂には佛像の代りに、水を司ると云う土俗神が祀られていた。境内に市立博物館があつた。時間の都合で内部には入らなかつたが、実は博物館が主体で仏閣の方は展示品と云う形であつた。この地方では仏教は完全に抹殺されていた。

市内には多数の中小工場が見えた。又旧式家屋は取払われ、煉瓦造りの中層アパートの建設が盛んに行われていた。

往路を取って返し、広州に戻り宿舎の白雲賓館に入った。賓館は市の中心部にあり、三〇階建の白亜の新築高層ホテルであつた。建物は高さは中国随一である。楊君が胸を張って説明を加へる。ロビーに入ると内外の旅客が溢れて盛況であつた。二〇階に部

屋を供されたが、絨緞を敷き詰めた部屋は広さも充分あり、バス、トイレも付き寝具や什器も新しく冷房も利き快適であつたが、香港の中級ホテルのミラマーには稍劣る。中国のホテルで気持の好いことは、チップも枕金も不要であることであり、部屋のドアには鍵をかけないことである。食堂は最上層にあり、此処からは市内が一望下におさめられる。周辺地区では道路の付換へや旧式家屋の取払い等、都市改造が盛んであることが目に付いた。賓館に隣接して此も新築の友誼商店があり、食後の一刻を過した。(次号に続く)

同窓会記事

東京支部見学会

昭和十年卒

有馬 敏彦

昨年は一〇月七日筑波学園都市の宇宙開発事業団の事業所を見学したが、今年は一〇月一日同じ事業団の地球観測センターを埼玉県比企郡鳩山町に訪訪ねた。

当日の参加者は三〇名。バスで国電山手線の池ノ西口を出発、関越自動車道に乗る。現地は埼玉

県の中央部、関東平野の西縁の緑豊かな丘陵地であるが、近年都心から東京電機大学等が新しくキャンパスを移して来ている。山合いの小盆地に位置している。

我々は到着後直ちに森下所長の本センターの全般につき詳細な説明を受け、ついで見学に移った。

地球観測センターは地球外からの眼で地球表面を観測し、その結果を受信する。センターでは結果を分析処理して各方面の利用に供する。地球の外から地球を見つめる眼は人工衛星に設置されたセンサーとカメラである。

衛星はアメリカが一九七八年三月に打上げた地球観測衛星ランドサットである。

このランドサット三号は地上九一五kmの宇宙を地球の南北両極を通過する軌道を二〇三分で一周し、一日に一四周する。毎回の軌道は少しずつ規則的に「ずれ」て行き、一八日で最初の軌道にもどつて来る。一八日でランドサットは地球表面の全域を観測することになる。

宇宙開発事業団はアメリカNASAとランドサットの利用契約をして情報を受けているが、日本がその観測範囲に這入る時刻は事前NASAから連絡され、衛星からの電波を直径一〇mのバラバラアンテナで受信しつゝ自動追尾し

て行く。ランドサットの眼はつぎの二種である。

- 一、多重スペクトル走査放射計 (MS)
- 二、リタリンビームビジョナカメラ (RBV)

MSは左右に振動する走査鏡で地表上の約一八五km中の光景を次々と捉えて、光学系によつて可視域では緑と赤に対応する二種類、近赤外域で二種類、遠赤外

(熱)域で一種類の合計五種類の波長帯に分光してそれぞれの検出器に送り込む。したがつて地上では五つの波長の異つた映像を同時に得ることが出来る。画像上の分解能は可視近赤外域で八〇m、熱赤外域で二四〇m以上の識別ができる。

RBVカメラは地表上約九八km平方を捉えることのできるカメラを左右二台並べて搭載しており、これを同時に作動させて地表上縦約九八km、巾約一八三kmの地域を〇・五〇五—〇・七五〇μmの一つの波長帯で一度に観測する。その地球表面上の分解能は四〇mである。

ランドサットからの情報は時々刻々特殊な高密度ディジタルテープ(HDDT)に記録されるが、HDDTは衛星の姿勢の変動、走査のブレ、感度のムラ等起因す

る歪が含まれているので之等を補正して汎用には使用できる形(CCT)にして磁気テープに記録される。さらにこれ等から写真処理を経て写真原図も作製される。

記録されたテープや原図は必要に応じて利用できるように整理保管され現在すでに一万余千巻のテープが保管されていて、利用者の要望に応じ直ちに引き出されるようコンピュータ検査がなされる。

さてこのような膨大な情報はどのように利用されているのだろうか。いくつかの既利用例を上げると海洋では潮の流れ、流水の動き、赤潮の発生その他の汚染状況、陸上では積雪、火山の噴火時の降灰状況、噴出物の分布、河川の流れから都市近郊の都市化に伴う土地利用状況、水田の稲の作柄まで把握しているとのことである。

五種類の波長別の画像はそれぞれ地表上の特殊の物質や状況に感じているから、これ等の画像を分析綜合して前記の目的、所謂リモートセンシング技術に役立つわけである。

以上ランドサットからの受信からテープ・写真の処理保管までの作業は一貫してセンターの仕事である。しかし全体のシステムは勿論アメリカの設計であり現在このセンターで使用されている設備は

パラボラアンテナとその自動追尾装置を除いて他は全部がアメリカ製とのことである。将来の利用面の多様化やハード、ソフトの技術上の進歩、この面での日本の実力を考えると日本製のハード、ソフトによる地球観測システムが欲しいという声も聞かれた。日常の作業に携わっている人には何か知らず小さな不使もあつて是非日本製のシステムでという声のあることも判るような気がする。

見学を終えて一行のバスは再び関越自動車道に乗り途中高坂のドライブインで昼食をとり一路出発地の池袋に向い午後三時すぎ解散した。

なおランドサットからの写真その他の資料は同センター東京六本木のデータ提供室に問合わせると入手できるし色々相談に応じてもらえる由である。

洛友会中部支部

ゴルフ会

志摩半島・七日島での日本電話施設主催の観月会に合流させて戴き、翌日鳥羽カントリークラブでゴルフ会を……というセットがここ数年続いている。悪天候に出会う年が多かったが、今年も参加者

の精進が良かったせいも、前夜の雨もあがり絶好のゴルフ日和であつた。

このゴルフ場は、名古屋鉄道が中心になって経営している会社で、的矢湾に面しており、殆んどコースから海が見えるという大変景色の良いコースである。

教室から岡田隆夫教授が御参加下さり、田中卓次長老以下計八名でコンペを行った。前半が良く後半落ちこんだ人、その逆の人、或は谷へ落したり林に打込んでOBに泣いた人等々千差万別であつた。成績は次表の通りであるが、若いパワーを發揮され遠来の岡田教授が優勝された。

- | | | | |
|----|-----|----|-----|
| 優勝 | 昭三〇 | 岡田 | 隆夫 |
| 二位 | 二七 | 遠藤 | 茂 |
| 三位 | 大五 | 田中 | 卓次 |
| 四位 | 昭一 | 秋田 | 清四郎 |
| 五位 | 二六 | 石川 | 進 |
| 六位 | 二八 | 藤原 | 恒之 |
| 七位 | 一九 | 末田 | 和 |
| 八位 | 三〇 | 野坂 | 泰彦 |
- (昭和二七年・遠藤記)

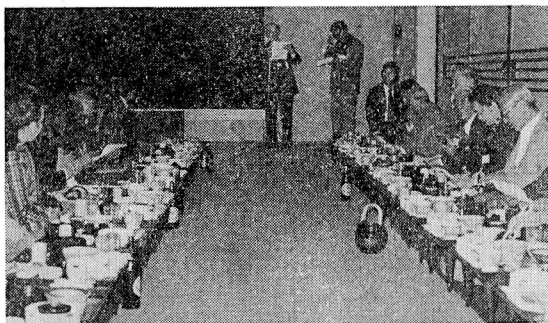
関西支部家族見学会

支部恒例の家族見学会は秋の名勝を探るという趣旨で十一月七日(日)天の橋立を選び、前年同様二百名(大人一八〇、子供二〇)

の参加が得られた。

当日は生憎の小雨模様で参加人数が減るのではないかと懸念されたがそのようなこともなく、集合場所の大阪ホテル阪神前と京都駅前には早朝から続々とつめかけられ、旧知の挨拶や家族毎の談笑が交わされるうち定刻には大阪三台京都二台のバスに分乗して出発した。夏の海水浴シーズンなら大渋滞の国道九号線も幸い車は少なく、亀岡・須知・舞鶴と順調に走り続けて無事正午に天の橋立ホテルに到着した。

早速ホテルの大広間に全員が集合し、金原幹事の司会で最初に佐々木支部長の挨拶、松田会長の謝辞の後、前田先生の音頭で乾盃し



会食懇談に入った。その間に池上先生から、一気教室の近況が紹介され、終りに松田会長より御自身の作詞作曲による「洛友会の歌」の御指導があつた。今回は女性歌手のテープを聞くことができ、先生の変らぬ朗々たる御声にも一同感銘を受けた。

天の橋立の紅葉はまだ始まった許りで期待外れだったが、股のぞきの名所といわれる傘松公園からは垂れ下る雨雲と小雨に煙る「天のかげ橋」の松並木や宮津港の渾然なる景観を望むことができ、風流に縁のない輩にも印象に残るものがあつた。

ケーブルと登山バスを乗りついで山腹の深い樹林の中にある西国二十八番札所で知られた成相寺に登ると、ここには欄間に左甚五郎作といわれる真向の竜がいる。この辺りはかなりの急坂になるが皆元気に登られた。

石段の途中に「撞かずの鐘」が置かれている。千六百年頃新鐘作りに寄附を募ったとき或る母親が金を出す位なら子供を出すと云ったところ、何の因縁かその子が鋳型のるつぼに落ちてしまった。鐘は完成したが撞くたびに子の悲鳴が聞え、以来この鐘は撞かないことになったという。

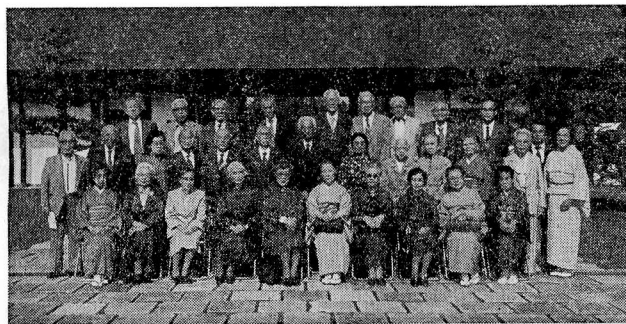
帰路、松田会長が御気分が悪くなられて一同心配したが、病院で

すぐ元気を回復された。最長老である先生の一層の御健康を祈るとともに、三世代にわたる同窓生・御家族が共に和やかな秋の一日を楽しむことができた事を心から喜んでゐる。(粕淵記)

十四日会定例大会

大正十四・五年同窓の十四日会全国大会は昭和五十七年十月十二・三日、東京、大阪のほぼ中程、静岡県袋井市で開かれた。

集った会員十五名、それに同伴夫人十二名、物故会員夫人(准



員)五名、総計三十二人の盛会であった。

十二日午後一時、東海道線袋井駅に集合、バスで遠州三山(法多山・油山寺・可睡斎)参詣、四時頃袋井市宇刈の葛城ゴルフクラブに隣接する「葛城北の丸」に投宿した。

こゝは純日本の建築の資材を使って建てられた、城のイメージのある宿泊施設ならびに食事所である。

最近物故された会員や夫人を追悼し、久振りの歓談は夜おそくまで尽きなかった。

翌十三日は一日殿様か奥方の気分となり、敷地一万坪ある広い庭を散歩、九時半記念撮影後バスにて掛川市に行き、青少年向け娯楽の国際的水準設備の完備した「つま恋」スポーツ・ランド(約五十

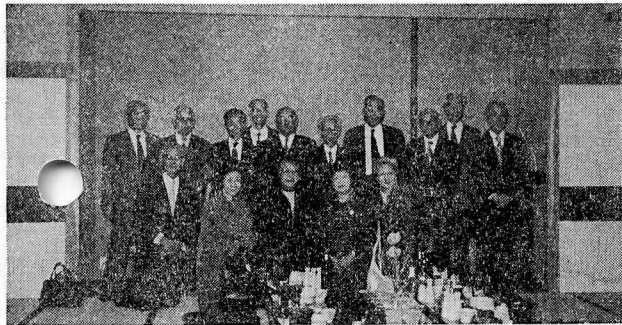


万坪)を見学して、そこで中食後、来年九月十二・三日に京都で再会することを約束して散会した。

四周年記念

クラス会報告

- 一、五六年一〇月一七日(土曜日) 一泊 会食
- 二、ホテル伊豆高原(静岡県伊東市池八九三一・一七六)
- 三、秋田(二人) 井原(二人) 石崎 岩元(二人) 岡崎 河合 清野 清水 田崎 平田 宰 正木 吉川(二人) (男二人)



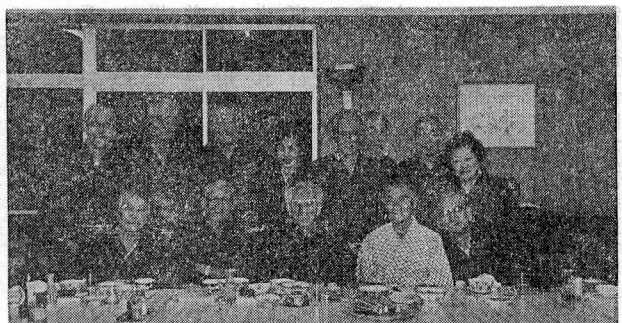
女四人)

翌一八日、河合氏の家を訪れ、広いガーデンを見学奥様のもてなしを受け、昼前開散。

四五周年記念

クラス会報告

- 一、五七年一〇月一七日(日曜日) 一泊 会食
- 二、法政大学三浦荘(神奈川県三浦市南下浦町上宮田)
- 三、秋田(二人) 井原(二人) 岩元 岡崎 河合 清野 鈴木 正木 山本 吉川(二人) (男一人、女三人)



翌一八日、アブラツボマリシラード見学後開散。

昭和一二年卒業、以来、クラス会を重ねて参りましたが、平均年齢も古希に達したようなので、今後は頻繁に開こうと云うことになり、五八年一〇月一七日、次回を予定しています。(正木知己筆)

編集後記

新年お目出度うございます。本年も相変りませず、宜敷くご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

新年号には、松田会長はじめ多数のご投稿を頂きましたが、一部次号に延ばさせて頂くことになりました。何卒ご諒承下さい。

記事について
 感想文、クラス別同窓会記事、外遊記事等を歓迎致しますので、振ってご投稿下さい。

特に本年は洛友会創設三十年に当たりますので、それに相応しい各位の記事を多数ご投稿下さるようお願い申し上げます。

お詫び
 古田様の記事「虎溪山と観楓」には綺麗なカラー写真があったのですが、当方の手違いで掲載出来なくなりました事を心からひ申し上げます。

(洛友会事務局)

計報

| | | |
|-------|--------|----------|
| 講昭5年 | 恒成 芳路 | 57・5・5 |
| 昭8年 | 大場 俊三 | 57・7・24 |
| 大15年 | 前田 安道 | 57・8・21 |
| 講昭2年 | 大西 義雄 | 57・10・1 |
| 講大5年 | 大柳男三郎 | 57・10・4 |
| 昭2年 | 堀内 多雄 | 57・10・11 |
| 昭8年 | 高尾 馨夫 | 57・10・22 |
| 大15年 | 後藤 利雄 | 57・10・24 |
| 講昭11年 | 定光 喜高 | |
| 講大5年 | 松尾 勝市 | 57・2 |
| 講昭3年 | 柴田(氏夫) | |
| 昭15年 | 二村 忠元 | 57・12・18 |

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。